



富士電機株式会社 代表取締役会長CEO **北澤通宏**

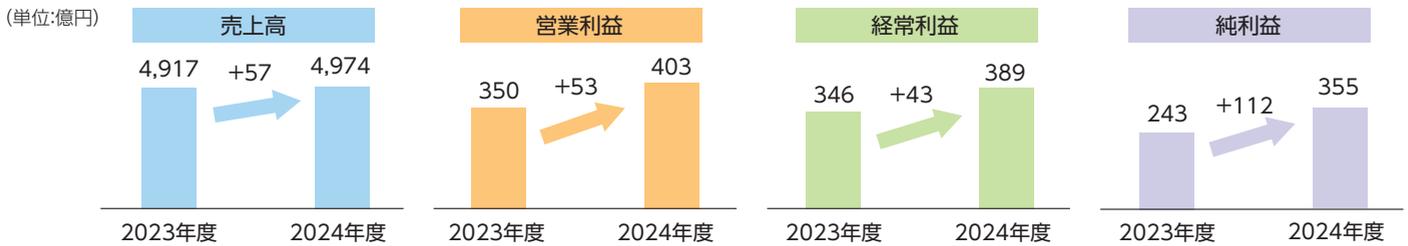
株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
 当中間期における当社を取り巻く環境は、脱炭素化やデジタル化に向けた投資の拡大を背景に、製造業やデータセンターにおける設備投資が堅調に推移しました。一方で、中国経済の低迷継続などを背景に工作機械関連などの需要は低調に推移し、自動車市場は地域ごとに強弱が現れ、想定より緩やかな伸長となっています。

こうした環境の中、従業員の賃金引上げ、賞与の増額などによる処遇改善、SiCパワー半導体の生産能力増強を中心とする設備投資を行うとともに、顧客需要に対応した生産の最適化、コストダウンなど、収益性向上に継続して取り組み、中間期の連結業績は、売上高、営業利益、経常利益、純利益いずれも過去最高を更新しました。
 通期業績予想は、営業利益率10%以上を目指し、営業利益を1,115億円に上方修正し、過去最高額を目標としました。

なお、中間配当につきましては、前年同期に対し1株当たり15円増配の75円とさせていただきます。
 地政学リスクが多様化し高まる中でも、事業機会を逸することがないように設備投資・研究開発投資を継続し、脱炭素社会に貢献する新たな事業・製品の創出に注力するとともに、従業員ファーストによる持続的成長企業であり続けたいと考えております。
 株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年12月

2024年度 中間期決算 売上高、営業利益、経常利益、純利益は、いずれも過去最高を更新



売上高

対前年57億円増加の4,974億円となりました。
 エネルギーは工作機械関連の市況低迷による器具の需要減があったものの、エネルギーマネジメント分野を中心としたプラントシステムの増加により増収。インダストリーは前年の設備工事の大口案件の影響に加え、低圧インバータの需要が減少し減収。半導体は自動車向けの需要減により減収。食品流通は新紙幣発行に伴う改刷特需などの需要増により増収となりました。

営業利益

従業員の処遇改善に伴う人件費の増加、半導体の生産能力増強に伴う減価償却費の増加や原材料価格高騰影響があるものの、高付加価値商材の投入と製品価格の値上げ、原価低減などにより対前年53億円増加の403億円となりました。

純利益

政策保有株式の売却益の計上を主因として、対前年112億円増加の355億円となりました。

(単位:億円)

セグメント別	2023年度実績		2024年度実績		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エネルギー	1,463	87	1,476	98	14	11
インダストリー	1,797	52	1,768	84	△28	32
半導体	1,085	168	1,080	151	△5	△17
食品流通	532	54	583	87	51	33
その他	313	21	274	17	△39	△4
消去または全社	△272	△31	△209	△32	64	△1
合計	4,917	350	4,974	403	57	53

2024年度 通期業績予想

<対7/25予想>

工作機械関連の回復遅れや電動車市場の拡大が当初想定を下回ること、当該部門で減収を見込んでいます。一方で、脱炭素化やデジタル化に向けたプラントシステムの需要増により、売上高の目標は据え置きます。営業利益の目標は1,115億円とし、営業利益率10%としました。

(単位:億円)	2023年度 実績	2024年度 7/25予想	2024年度 10/31予想	対前年増減	対7/25増減
売上高	11,032	11,140	11,140	108	0
営業利益	1,061	1,090	1,115	54	25
営業利益率	9.6%	9.8%	10.0%	0.4%	0.2%
経常利益	1,078	1,095	1,115	37	20
純利益	754	805	860	106	55

下半期の前提為替レート
(7/25予想から変更なし)

	10/31予想
USDドル	¥140.0
ユーロ	¥150.0
人民元	¥19.5

決算や業績予想のご説明はこちら

富士電機 IR説明会

検索



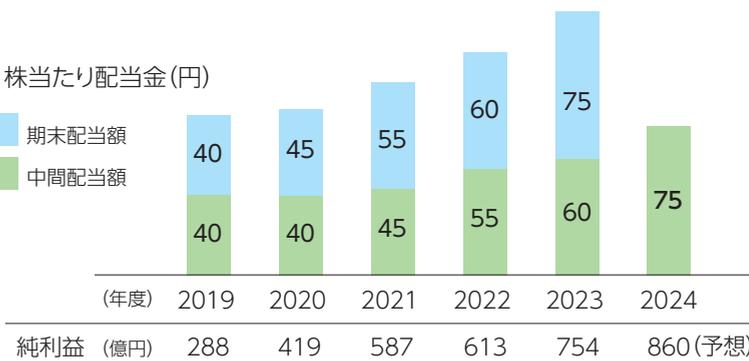
中間配当

通期業績予想および財務状況などを総合的に勘案して、前年同期に比べ15円増配の1株当たり75円としました。

なお、期末配当は下半期の動向を見極め決定します。

1株当たり配当金(円)

■ 期末配当額
■ 中間配当額



TOPICS

富士古河E&C株式会社の完全子会社化について

富士電機株式会社および富士古河E&C株式会社(以下、富士古河E&C)は、両社の取締役会において、それぞれ、当社を株式交換完全親会社、富士古河E&Cを株式交換完全子会社とする株式交換を実施することを決議し、両社間で株式交換契約を締結しました。2025年1月30日をもって富士古河E&Cは上場廃止となり、2025年2月3日をもって当社の完全子会社となる予定です。

当社と富士古河E&Cの既存事業・技術と新たに創出するシナジーを生かした更なる協業体制の強化、経営資源の有効活用などにより、富士電機グループ全体の企業価値向上を目指します。

詳細は適時開示でお知らせしています

富士電機 E&C PDF

検索



皆様のご応募ありがとうございました。

「富士電機レポート2024」「2025年版当社オリジナルカレンダー」および株主様向けイベントに多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げます。

株主様向け工場見学会では1,500名を超えるご応募をいただきました。抽選により当選された株主様にご参加いただき、製造現場や展示ルームなどをご観いただきました。

なお、カレンダーをご請求いただいた株主様には11月上旬より順次発送しております。



変圧器が落雷によって壊れることがないか製品の信頼性を試験する工程を紹介(千葉工場)

「親会社株主に帰属する当期純利益」は、本報告書においては「純利益」と表記しております。

本報告書の将来についての戦略などに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。